

## 腕相撲により受傷した橈骨頭骨折の1例

○新倉 路生 (あらくら みちお), 吉田 和也, 松島 真司, 伊藤 研二郎, 隈部 洋平

明石医療センター 整形外科

### 【目的】

腕相撲による橈骨頭骨折は稀である。今回我々は、腕相撲による橈骨頭骨折に対して観血的治療を行った1例を経験したので報告する。

### 【症例】

62歳男性。現病歴：友人と腕相撲をしていた際に手関節を回外強制された。その際轢音あり。直後より右肘関節痛が出現した為近医受診した。橈骨頭骨折を指摘され、治療目的で当院紹介された。現症：右手指の運動問題なく、知覚鈍麻なし。右肘関節の単純X線像にて橈骨頭頸部骨折を認めた。CTでは関節面に至る骨折は認めなかった。本骨折に対して保存治療では整復、固定が困難と判断し観血的治療を行った。手術はDTJ スクリュー2本にて骨片を固定した。術後10ヶ月で骨癒合が得られた。術後10ヶ月の現在、肘関節の可動域は屈曲140度、伸展0度、回外90度、回内90度と経過良好である。

### 【考察】

腕相撲における外傷の報告は上腕骨らせん骨折が多い。腕相撲による橈骨頭骨折は我々が渉猟しえた範囲では報告がない。受傷機転は軸圧とともに剪断力が働いて生じるものと考えられる。